

## 華嚴けごんの教え

東大寺は、華嚴宗のお寺です。その根本的教えを説く『大方広華嚴經』は、時間と空間を超えた仏を説いた教えであり、偉大で、正しく、広大な、仏の世界を、菩薩のさまざまな実践の華はなによって飾られていることを説く經典です。『華嚴經』では、仏とは、ヴァイローチャナ仏のことを指し、その意味は、遍あまねく照らし出している無限の光明そのものであり、光明遍照と訳されます。

『華嚴經』の漢訳本には、旧訳の「六十華嚴」と新訳の「八十華嚴」と、經の最後に位置する「入法界品にゅうほつかいほん」のみをあらわした「四十華嚴」が伝わっています。「ヴァイローチャナ」は、旧訳では「盧舎那仏」、新訳では「毘盧遮那仏」と音写しています。

この大仏さまは、お釈迦さまが、無限の修行をして悟りをひらき、人々を救うために蓮華藏世界れんげそうという「悟りの世界」の教主になられたお姿で、実に人間的な仏さまです。

密教では、同じ毘盧遮那仏が「大日如来」となり、真理そのものの人格化で、宇宙の生命そのものと、考えるのです。そのことが、華嚴と異なるところです。